

高畠町立小学校教育環境等検討委員会

第5回会議録

日 時：令和7年6月24日（火）午後6時35分～午後8時12分

場 所：高畠町役場 大会議室

出席者：検討委員会委員12名（3名欠席）、事務局4名

◇開会

◇委員長あいさつ

こんばんは。本検討委員会も9月末までになりますので来月、再来月と開催して9月にまとめるかと思っています。今日は第5回になりますが、前回に話がありましたように統合を視野に入れながらどういう教育環境を整えていくのか、検討委員会としての議論の整理を進めていく時期に来ていると思いますので本日もどうぞよろしくお願いします。

◇説明

- ・町内各小学校の現状をおさらい

事務局より説明。

◇協議

事務局 それでは早速協議に入ります。座長を委員長にお願いいたします。

委員長 これまでの議論を振り返ってみますと、教育環境を通してお子さんにどういう力を付けていきたいかご意見をいただいたと思います。お子さん一人一人が主体性を発揮できる場所が学校にあってほしいとか、コミュニケーションや、レジリエンスの機会があってほしいなどのご指摘もいただいたかと思います。前回も申し上げましたが、現状のままでいくことは難しいと思いますので、「統合」の方向性で議論をしようと思った時に、ここが大事だと思うことをグループで話していただきたいと思います。

20分くらいグループ内で話していただいた後に、お一人ずつご発言していただきたいと思います。

——— グループ毎に意見交換 ———

委員長 では、まだまとまっていらっしゃらないかもしれませんがお一人ずつご発言をお願いいたします。

委 員 学校の統廃合にはメリットもデメリットも伴いますので決め兼ねるところですが、人数の規模や施設の経年を総合的に考えたとき、統合して新しい施設がいいのではないかと思います。6校を1校にではなく、部分的に統合を進めていく方がいいのではないかと考えますが、地域

との関わりが希薄になっていくことが課題だと思います。

委員 複数学級があった方が良くと思います。同じメンバーで生活するよりたくさんの友達と関わることで主体性やコミュニケーション力、レジリエンスが培われると思います。施設面でも学校数を減らして体育館に冷房を設置したり設備を整えることができるのではないかと考えました。地域のコミュニティを考えると課題が残りますが統合の方向で考えました。

委員 統合することに反対ではありませんが、地域学校協働活動が統合した場合にどうなっていくのか考えたときに心配ですし、子どもたちの地域事業への参加についても心配になりました。ですが統合すれば先生が増えますので子どもたちを見る目が増えるということで安心ではありますが。

委員 統合は避けられないと思いますが、統合までの間に体育の時間など他校の児童と交流してほしいと思います。また地域性を生かした体験活動、タケノコ掘りやキャンプなどでの交流も出来たらいいなと思っています。

委員 今日たまたま学校施設を見学してきました。図書室にエアコンがない、体育館も指数を超えると使えない、夏休み中のプール開放も行わない、統廃合よりも速く子どもたちの学びの場を作りたいと思いました。これに対する町の舵取りを提案してほしいと思いました。

委員 町として小学校の今後についての計画、方向性が出てくるとよろしいのかなと思います。地域との関わりという点では公民館の存在がより一層大事になってくると思います。公民館活動に子どもたちをどのように取り込んでいくかが大事になると思います。

委員 何年後を焦点に適正規模とするのかわからないところがありますが、子どもたちにとってはどんな環境に置かれても何とかなると思っています。仮に2校に統合する場合でも、同規模のものを2つでなくてもいいと思います。統合した後にそれまでの学校や地域でやっていたことを新たな学校に盛り込むことは難しいと思っていて、地区の子どもたちは地区で預かってやっていくという体制を社会教育課と連携して作っていくことが大事だと思いますし、大人たちの関わり方も問われるとも思いました。

委員 複式学級の様子を見て、上の学年の学習が予習として下の学年に入ってきて、下の学年の学習が復習として上の学年に入ってくるということで、相乗効果で複式学級も素晴らしいと感じています。担任の先生の負担が大きく、様々な授業で地域の方に手伝っていただいています。子どもたちからしても少人数より多い方が望ましいと思います。純粹に友だちを作り、自分のやりたいことをやるのが子どもたちだと思いますので、保護者も子どもたちと一緒に繋がっていければ統合も近い話なのかなと思いました。

委員 高畠町内でもそれぞれの地域性があるようで、統合となった場合、いかにその地域性をすり合わせていくかが大切だと感じました。ただ、子どもは順応性があるので何とかなると思いますが、学校は子どもだけでは成り立ちません。保護者や地域の人が協力し合ってはじめて教育が成り立つと思いますので、すり合わせが大事だと思います。

委員 小規模校のメリット、デメリットをたくさん感じてきました。統合に対する保護者、地域、

学校の温度差にすり合わせが必要などころがあるなど感じています。その点で出来ることを考えてみると、地区の活動に他の地区の子どもたちにも参加してもらったり、他地区の活動に参加してみたり、それぞれの地区の良さを保護者にも周知できないかなと思います。統合に対して消極的にならず、前向きに学校、保護者、地域が連携していくことが大事だと思います。地域の人が学校で教えてくれる機会というのはいいことだと思いますので、続けていくにはどうしたらいいのか考えていかなければならないと思いました。

委員 これまでの経験上、適正規模の判断は多くても少なくとも良さと課題があって難しいと思っています。少ない学校の保護者は不安感が大きく、行政側は財政事情から、より充実した設備でより良い環境で学習を提供したいという考えが関係してくるかなと思います。かつて赴任した先では、地区から小学校をなくさないことにこだわり、そのうちに若い世代が地区を離れてしまい、最後は統合やむなしという決断をしました。子どもたちを真ん中において、子どもたちの学習環境をどうしたらいいのか意見を出し合って落としどころを見つけていければいいのかなと思いました。

委員長 みなさんからご発言いただきましたので、それを聞いて今思っていることをグループ内で話し合いたいと思います。

——— グループ内で話し合う ———

委員長 それでは出された意見を事務局で整理していただいて、次回の論点を作っていただきたいと思っています。お話を伺って見て、学校を統合して施設を良くすればハッピーになるということではありません。その学校で何をやりたいのか、とか、どのように子どもの学びであったり遊びであったりを充実したのか、魂が入らないと設備だけを整備すればいいという話には残念ながらありません。もう一つは、これからの学校のあり方を考えるというのは、大人の関わり方の問題だということがはっきりしたと思います。学校に地域の方や保護者の方がどれくらい関わっているか、あるいは学校にお任せになっている感覚があるとすれば学校の規模を大きくしようが小さくしようがお子さんの教育環境としてはあまり変わらないと思います。地域の活動を通して人と関われる経験がお子さんにとって意義があることだと思います。また、複式学級の方がお子さんの学力が上がるという研究結果もあります。規模が大きくなっても小規模でやることの良さを学校でどのように生かせるかということもあるのだらうと思います。学校を地域に開くということは非常に大事なことで、子どもたち自身にとって豊かな環境にしていくことは当然あるかなと思います。本日の協議は以上にします。ありがとうございました。

◇その他

事務局 委員長ありがとうございました。

ここで、第4回検討委員会の会議録について何かございましたらご指摘いただきたいと思います。

ます。

(発言なし)

◇閉会

事務局 それでは以上を持ちまして第5回検討委員会を閉じさせていただきます。ありがとうございました。
ました。